

# 工学デザイン 実習V

Khoi Vinh

2211029    小笠原和希

# Khoi Vinh

---

# 1

## FIRST PART

生涯と業績

---

# 2

## SECOND PART

ネットワークとの会話

---

# FIRST PART

## 生涯と業績



# 生涯と業績



## コイ・ヴィン

1971年: 南ベトナム・サイゴン生まれ

1993年: オティス・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン (OTIS COLLEGE OF ART AND DESIGN) をグラフィックデザイン専攻で卒業

2001年: デザインスタジオ「BEHAVIOR, LLC」を共同設立し、4年間運営に携わる。

2006年: THE NEW YORK TIMESのDESIGN DIRECTORを務め、同社のデジタル製品のデザインを統括。

2011年: スポーツコラムニストのSCOTT OSTLERと共同でニューヨークのスタートアップ「LASCAUX CO.」を設立。

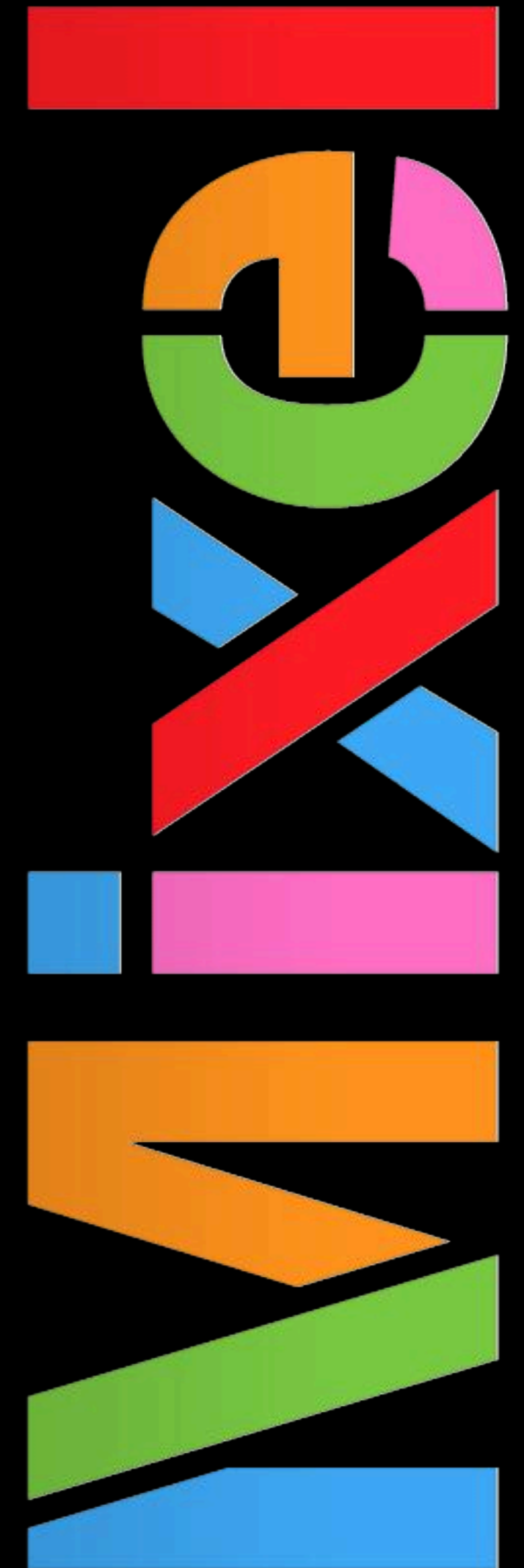
写真編集アプリ「MIXEL」をリリース

2015年: ADOBE INC.に入社し、現在はPRODUCT DESIGNのSENIOR DIRECTORを務める



# SECOND PART

## ネットワークとの会話



# ネットワークとの会話

## 検索機能とユーザー体験

現代の検索機能のデザインは、もはや単にデータベースからキーワードに合致する情報を「引っ張ってくる」だけの単純な作業ではない。

ユーザーが心の中で抱いている意図や、言葉には表れていない本当のニーズを「会話」を通じて理解し、その上で彼らが真に求めているものを見つけ出す。それは、入力されたキーワードだけでなく、ユーザーの過去の検索履歴、位置情報、時間帯といった文脈情報からユーザーの「会話」の続きを推測するといった高度で洗練されたユーザーと検索システムのインタラクション体験を創造することに他ならない。

# ネットワークとの会話

## デザインプロセスとユーザー参加の重要性

コイ・ヴィン氏が提唱するデザインプロセスは、予測可能な工程の連続ではない。彼の考えでは、デジタルデザインは常に変化し、進化し続ける「動的なプロセス」であり、その核心には「ユーザーとの継続的な対話と価値の共創」がある。

ユーザーを単なる最終的な製品の受け手である「消費者」と見なすのではなく、デザインプロセスの積極的な「対話の参加者」として捉え、ユーザーからの要望やフィードバックを繰り返しデザインに反映させる「反復」をすることが、これからのデジタルデザインに不可欠であると強調している。